

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501169		
法人名	医療法人 親仁会		
事業所名	医療法人 親仁会 グループホーム ひまわり		
所在地	福岡県大牟田市西浜田町15-3 〒836-0027 (電話) 0944-56-3733		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年10月27日	評定確定日	平成20年12月2日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人	非常勤 1 人 常勤換算 6.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての～		2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有(165,000 円) 無	有の場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日あたり 円程度		

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

登録人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	0 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名		
要支援1	名	要支援2	名
年齢	平均 85.7 歳	最低 71 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中友診療所・米の山病院・米の山歯科診療所・みさき病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

友の会形式による運営の診療所が母体であり、診療所の2階の病棟を改築したホームである。母体の医療機関が同じ建物内にあり、医療面でのバックアップ体制は、利用者・家族に安心感を与えている。また、利用者のほとんどが地域で暮らしていた人々であり、馴染みの生活が保たれている。職員との自然な会話や笑いがあり、温かさに包まれた「家庭」に在るような、ありのままの普通の暮らしを営んでいる。「地域で普通に暮らすことをもっと深めていきたい」というホームの理念を職員全員で共有し、地域の盆踊りや餅つき大会、小学校の運動会への見学、いきいきクラブ(予防介護教室)へ毎月参加するなど、近隣の方との交流が図られ、地域とのかかわりが積極的に展開されている。利用者の要望に応じた外出も多く、温泉旅行やショッピングなどを通じて、外部との交流に利用者が楽しみを持ち、いきいきと安心して生活できるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い職員は、全体会議にて改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で毎月の会議や介護計画書の内容の充実、マニュアルの見直しなど、具体的な改善がみられた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたり、全職員にて自己評価を行うなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	老人会長、公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域ボランティアの方、外部の介護支援専門員、家族等の参加のもとに2ヶ月に1度の運営推進会議を開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や地域活動、消防対策等の検討を行うなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	毎月ホームだよりにて写真を掲載した行事報告や個別に利用者の健康状態や日々の暮らしぶりなど、詳細に報告している。訪問時や介護計画の見直しに伴う説明等、様々な場面で家族の思いや意向の把握に努めている。また、家族説明会にて交流を深めながら、要望・希望などの意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへの取組みがある。出された意見等については運営推進会議にて改善の報告を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事の盆踊り大会や餅つき大会、近隣小学校の運動会への見学参加、民生委員主催のいきいきクラブ(予防介護教室)へ毎月参加するなど、地域との交流が積極的に行われている。また、小学生ボランティアなどを受け入れたり、併設のデイケアと合同で開催しているホーム行事のクリスマス会や七夕祭りに地域の方が参加するなど、地域との交流を深めている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	今回の外部評価を受けるにあたり、全職員にて理念 を再度検討し、「地域との交流と看取りの介護」を意 識した理念をあげており、地域の中で生活・かわ りを重視した理念を作り上げている。常に地域とのか かわりを意識しながら、利用者が安心して住み続けら れるよう支援するなど、質の向上に向けた取り組みが ある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念が掲示されており、自然に目に入る 工夫がある。また、介護計画書の作成時理念に基づ いたケアの内容などについて協議されるなど、理念の 実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域行事の盆踊り大会や餅つき大会、近隣小学校 の運動会への見学参加、民生委員主催のいきいきク ラブ(予防介護教室)へ毎月参加するなど、地域との 交流が行われている。また、小学生ボランティアなど を受け入れたり、併設のデイケアと合同で開催してい るホーム行事のクリスマス会や七夕祭りに地域の方 が参加するなど、地域との交流を深めている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い職員は全体会議にて改善についての協議を行 うなど、質の向上に向けた取り組みがある。この過程 で毎月の会議や介護計画書の内容の充実、マニュアル の見直しなど、具体的な改善がみられた。今回の外 部評価にあたり、全職員にて自己評価の確認を行う などの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	老人会長、公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域ボランティアの方、外部の介護支援専門員、家族等の参加のもと2ヶ月に1度の運営推進会議を開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や地域活動、消防対策等の検討を行うなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、地域包括支援センター職員より高齢者虐待防止法について講義を受けるなど、行政との連携が図られている。また、毎月2回あんしん介護相談員が訪問している。困難事例についても直接行政に相談するなど、積極的なかわりがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 な人にはそれらを活用できるよう支援し ている	利用者や家族には、契約時や家族説明会にて成年後見人制度や日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)の概要や利用手順についての説明を行い、活用にむけての支援を行っている。今後、外部研修への参加を予定しており、職員に対して学ぶ機会を設け、制度に対する理解を深めるように努めている。		今後予定されている外部研修へ参加し、全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めることができるような取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族訪問時やその都度の電話連絡、介護計画書の見直しに伴う説明などが行われている。毎月ホームだよりにて写真を掲載した行事報告や個別に担当職員が利用者の健康状態や日々の暮らしぶりなどを報告している。また、年1回の家族説明会にてホームの運営やサービス内容などについて説明を行うなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	訪問時や家族説明会、その都度の電話連絡、介護計画の見直しに伴う説明など、様々な場面で家族の思いや意向の把握に努めている。また、家族懇親会にて交流を深めながら、要望・希望などの意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへの取り組みがある。また、出された意見などについては運営推進会議にて改善の報告を行っている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	法人内での職員の異動はなく、職員が働きやすい環境を整え離職を抑えるように工夫し、利用者との馴染みの関係が保たれるような体制を整えている。また、新しい職員が入職した際は、職員が馴染めるよう1ヶ月程度は、日中のみの勤務とし管理者が見守りながら指導にあたるなど、利用者へのダメージを防ぐ取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等による制限はない。パソコンを得意とする職員がホームだよりや誕生カードを作るなど、職員の特技を活かした工夫がある。また、外部研修や資格取得への研修に対しては、勤務ローテーションの調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が認知症コーディネーターなどの外部研修に参加し、事業所内で受講報告会や勉強会を行い、人権を尊重した認知症高齢者への対応などを職員間で学ぶ取組みがある。広義においての人権に関する学習や啓発活動について職員の人権意識を喚起するような勉強会・研修などへの取組みは、今後行う予定である。		今後、予定している広義においての人権意識に関する学習や啓発活動についての研修に参加し全職員にて理解を深め、職員一人ひとりの意識を喚起する取組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修への参加を積極的に推奨し、可能な限り職員に参加の機会を確保するなどの支援体制がある。また、全体会議にて受講報告会を行い、知識の共有に努めるなどの取組みがある。外部研修については勤務調整を行い、職員全体のスキルアップを図るなど、質の向上に向けて取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行政主催の「あんしん介護相談員」を受け入れている他グループホームとの意見交換や交流、看取り介護検討会議にての情報交換など、様々な機会を通じて他の事業所との職員間の情報交換や交流を行っている。また、他のグループホームの夏祭りに利用者とともに参加するなど、質の向上に向けた取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族の面談にての聞き取りや入居前のホーム見学、体験利用などを通じて、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取り組みがある。また、入居後は、頻繁な声かけを行い、かかわりを多く持つなど、利用者の様子を見ながら徐々に馴染めるような支援を行う取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	魚のさばき方や料理の仕方など、生活全般の知恵を教えていただくなど、人生の先輩として日常のかかわりの中で自然と学びあう関係づくりへの取り組みがある。また、利用者が自然と職員へ感謝の言葉をかけるなど、互いを尊重し支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族の面会時、家族会などにて家族の思いや希望の把握に努めている。また、日常のかかわりや利用者の動作、表情等から利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、全体会議にて職員全体で検討を行っている。把握した内容は、センター方式を活用し職員間での情報共有や介護計画に反映させるなどの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々のかかわりを通して、利用者の希望などの把握に努め、家族の面会時の声かけや家族会等を通じて、家族の思いや意向の把握に努めている。医療連携の訪問看護師や他の職員からの情報を把握し、介護計画書へ反映させる等の取り組みがある。また、利用者とのかかわり等については、その都度検討し介護経過記録に詳細に記録している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヶ月毎及び状態変化の際は、利用者、家族の意向 や希望の確認を行い、全職員にて介護計画書の見直 し確認や再作成を行うなどの取組みがある。全職員 による月1回程度の利用者や家族の意向の確認等 については、今後の課題である。		利用者全員に対して、心身状況の変化の有無に関 わらず、月1回程度は新鮮な観点から、本人や家族 の意向や状況を確認し、職員間で情報や意見を交 換しあう機会の確保を期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関による往診 や訪問看護師により利用者の状態把握、連携支援が 行われている。また、利用者が入院した際に家族に ホームの居室を利用していただくなど、利用者の状 況や家族の要望に応じて、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ 医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられる ように支援している	ホーム協力医の定期的な往診 や訪問看護師により、利用者 の状態把握を行い、利用者の 状態に応じて協力病院への受 診の支援がある。また、以前 からのかかりつけ医の受診に ついては、家族対応が困難な 場合は、ホームにて支援する などの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	できるだけ早い段階に重度化 や終末期における対応を説 明し、利用者の意思をふま えた上で、家族等の意向を 確認し書面にて同意を得て いる。利用者の状態変化や 重度化・終末期に入る前に 、家族、主治医、事業所な どを交えて協議し、方針を 共有していく取組みがある。 また、協力医療機関と密に 連携を取りながらホームに て看取りを行ったことがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	全体会議や日常のかかわりの中で、職員の意識の 向上を図ると共に、常に尊厳を持った支援を心がけて いる。タイミングを見計らってのさりげない声かけ、丁 寧な呼称、視線を合わせて笑顔で傾聴するなど、利 用者の誇りやプライバシーに配慮した対応が見られ た。また、今後個人情報保護法についての研修に参 加し、全職員で学ぶ機会を確保している。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに配慮して、食事や 入浴にかかる時間、居室で過ごすタイミングなど、利 用者のペースや気持ちを尊重した対応が見受けられ た。また、利用者が以前入居していた事業所の夏祭り に参加するなど、利用者一人ひとりの状況に配慮して 支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	魚、野菜の下ごしらえや、下膳や後片付けなど、職 員と利用者一人ひとりができる範囲で一緒に協力しな がら行われている。利用者、職員が共に食卓を囲み、 ゆったりと和やかな雰囲気の中で食事を楽しめるよう な取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	午前中から夕方までの毎日の入浴が可能であり、 利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応している。 入浴の順番や好みの湯温など、入浴を楽しめるよう に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	センター方式を活用できることや役割などにつ いて検討し、食材の下ごしらえや洗濯物たたみ、魚をさ ばくなど、家事全般において利用者の持っている力や できることを引き出し、柔軟な支援を行っている。ま た、利用者の希望に応じた温泉旅行や外食、地域の 予防介護教室への参加など、楽しみごとへの支援が 行われている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	月1回以上の花見、温泉旅行、毎月の介護予防教 室や地域行事への参加、小学校運動会への見学な ど、外出支援が積極的に行われている。また、毎月外 出支援の日を設け、個別の希望に応じたその都度の 外出など、積極的に戸外へ出かける取組みがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、玄関の開閉を知らせる チャイムを取り付けるなどの工夫がなされている。ま た、職員は利用者の動きを細かくキャッチし、外出傾 向の強い利用者については、行動状況を観察しさり げない声かけや見守りを行うなどの取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、法人内の施設と合同で防災訓練を行い、避 難経路や避難方法、消火器の使い方などを学ぶ取組 みがある。今後、防火管理者の研修に参加し、積極 的に消火訓練の実施に取り組む予定である。地域の 緊急連絡網についてや緊急時の地域住民への働き かけについても今後取り組んでいく予定である。		今後予定している運営推進会議の場を利用して、 非常災害時に地域の協力が得られるような更なる取 組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養価やバランスを考慮して献立を作成し、食事を 提供している。また、適宜ホーム協力医や訪問看護 師にカロリーや塩分、水分などについて相談し個別に 調整するなど、栄養・水分面への配慮がみられる。ま た、利用者ごとの食事摂取量を毎回チェックし、必要 な利用者については水分摂取量の把握を行うなど、 食事・水分確保への支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は外出した際のスナップ写真を掲載した ホームだよりを掲示したり、リビング内に畳のスペー スが広く施されるなど、入居者一人ひとりがゆっくりと 居心地良く過ごすための工夫がある。フロア内に昔の 足踏みミシンや市松人形、屏風などを配置し、利用者 にとって懐かしい空間づくりへの配慮がなされてい た。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、家具、仏壇、テレビ、シルバー カー、扇風機、写真など、馴染みの物や使い慣れた 物が持ち込まれており、利用者にとって居心地よく過 ごせる居室づくりへの工夫や配慮がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号